夕刊
磐城新聞
五月二十二日發行
定價　一ケ月金五拾錢（税共）
廣告料金　五行以内一回金六拾錢　以後一行ニ付金九拾錢
編輯兼發行人　磐城新聞社
發行所　磐城新聞社
東京出張所　東京市麻布区霞町十番地　電話麻布（ノ）一〇六五五八番
（日曜祭日翌日発刊）

兎の耳と禮儀作法（五）

佐波古直胤

斯う言ひ終られて汝は右ります。私は絶對に此のチよ廻り逢へ、我は左よりヤンスを逸してはならない廻り逢はうと宣っせられきして、約束して廻られます時に、伊邪那美命も『ア、良き男よ』と歌ひ給ひ、次に伊邪那岐命が『ア、良き乙女よ』と歌はれました。斯う言ひ終りて後、伊邪那岐命が伊邪那美命に對して申されますに、女子が男子に先んじたのは良からぬ事であると申さかましたが、二柱の神樣の間に子、蛭子がお出來になられました。此子は其の名の如く体弱美しからぬ故にあー船に入れて流し捨てられましたが次に淡島を生まれましたが同じく御産に叶はなかが爲に御子の中には加へられなかいようのであります。

今や春の日が燦々と降そゝいでゐる神苑の池を廻つて雄雌の鶴はいかにもゆ地よげに、眞白な羽をいつぱいに擴げて樂しさうに舞ひつゞけて居ります。先生の御講義は彌々熱を含んで解きあかされてまゐります『即ち汝は右より廻り逢へ我は左より廻り逢はむとのりたまひ……』と丁度この時ものゝ見事に舞ひ終られた鶴は靜かに羽を疊んだのであります。私は思はず膝をうつて、分つたと思つたのであります。左の羽が上に疊まれたのであらうか、右の羽が上に疊まれたのであらうか、直ぐそれが知りたかつたのでありました。

丁度その頃昭和十年でした如仙臺市齋藤報恩會の神物が會場にあてられました金襴の名だたる生物學者が集つて學會が開かれまして酒先生の講義神社に參拜さ、龍宮所の表二階の休憩室に案付かれまして、松島の美景を眺望、鶴の遊ぶ神苑を眺をやられたのであ

度う御座います』とお尋ねしてみましたところ、諸先生方はその悲問に呆れてしまはれた樣に、只顔を見合せてニヤ〳〵笑つてゐらつしやるばかりであります。或先生に、序をもつて、古事記からヒントを得た要領をかい摘んで御耳に入れましたところが『思付きは面白いが、それにも萬に一つの例外はあるものだ、言ひ切つてしまはぬところにわるいちがあるぞ』といつた意味を話されました。

ひふの献立

本保健所榮養指導員　成田君子

炒り豆腐

豆腐　一〇〇瓦　約二六、七匁
大豆　一〇　約二〇つぶ
櫻海老　四　小否輕く一杯
葱　二〇　普通丸二寸五分位
油　一〇　約二、七匁
淺漬
計　蛋白質一二、四瓦　溫量一九三カロリー

〔調理法〕大豆はよく洗ひ十分におらで炒めて豆腐の水を切り加へ櫻海老と葱の小口切を入れて砂糖、醤油、鹽で味を整へ炒り上げる。

折花贈友

珠雲　小野勝平

庭梅折取客君家
慰病有情規変加
凌得冰霜復生氣
祇當撫養學斯花

23日
5月
四十六名（大正一五）

△長濱佛國船を砲撃す（文久三）△十勝岳大爆發死者百

天氣豫報

小名浜測候所觀測

今明日　北東の風晴
後晴　北東の風晴

講談

恩讐無道

（106）

久我荘多郎
菩川三十代書

人の春

呼び渦紋（十二）

『お、はいりなさい、田原君遠慮することはないだらう』

『はあ』

『やつぱり君は、書間のやうに元氣を出さねば駄だ。借りて來たやうに大人しくては、君らしくない。まるで人が違ふやうだ。出さなかつた間の元氣を……』

『……』

恥ぢ入る目が、うろ〳〵へいのだ魂熱のやり場に困まつてゐる。

『はゝ、はは、はは』

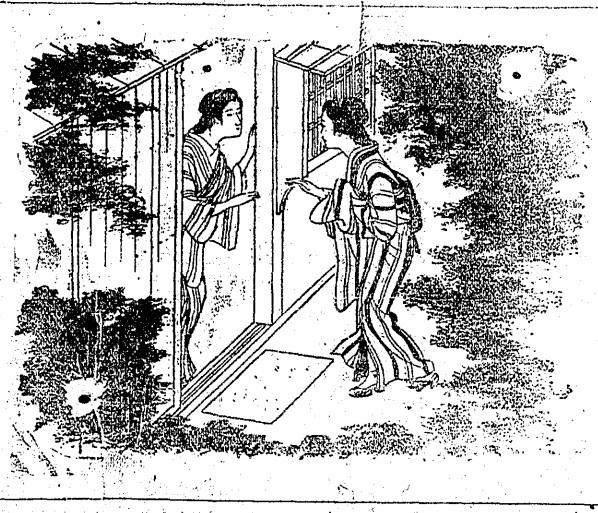
金四郎のつくる重い空氣を、惣介が、その笑ひでほぐらうとしても、乘つて來ない。惣介が家へはいつても、金四郎だけはまだ、表に立つてゐる。

『いけないなア。もつと素直になれないものか。われ〳〵は、同じ幕臣くづれなのだ。遠慮することはないぞ』

『は――では、ぶしつけながら……』

はなはだ固くるしい。しかが、酔へば猪のやうに、前へ出る人間だとは思へな。

『茅江、茅江』



『ア、お帰りなさいませ』出迎へた茅江は、金四郎を見て

『いらつしやいませ』

『慮外ながら、お邪魔に參上いたしました』

金四郎は、茅江に叮嚀な禮を返す。

『さ、あがり給へ。茅江、この人は、田原金四郎殿といはれる。今日から、我が家の一員だ。仲よくしてもらへ』

『はい。ふつゝか者でございますが、どうぞ宜敷くお願ひ』

茅江、やな顔一つ。

。不審の色も見せず、何故にこの田原金四郎といふ男が、自分の家の一員となるか、それも尋ねようとしない。

兄を信じてゐる茅江なのだ。惣介のやることなら、どんなことでも間違つてゐると思はないし、話を聞かされるまでは、こちらから兎角の言葉はつゝしまねばならないと、それを知つてゐる茅江なのだ。

惣介は、いかめしい官服を脱いで、くつろいだ姿になつた。

『膝をくづし給へ、田原君。こゝは君の家でもあるのだから、そのつもりで樂に！』

その樂なことだけが、取柄だと思つてゐてくれ。何も構へない。また、貧乏くらしのことだから、馳走も出來ない』

默つて、金四郎は首たれた。言葉もないのだ。くつゝ胸がさし迫つて、この情

郎といふ男が、自分の家の一員となるか、それも尋ねようとしない。

兄を信じてゐる茅江なのだ。惣介のやることなら、どんなことでも間違つてゐると思はないし、話を聞かされるまでは、こちらから兎角の言葉はつゝしまねばならないと、それを知つてゐる茅江なのだ。

惣介は、いかめしい官服を脱いで、くつろいだ姿になつた。

『膝をくづし給へ、田原君。こゝは君の家でもあるのだから、そのつもりで樂に！』

その樂なことだけが、取柄だと思つてゐてくれ。何も構へない。また、貧乏くらしのことだから、馳走も出來ない』

默つて、金四郎は首たれた。言葉もないのだ。くつゝ胸がさし迫つて、この情

してやらうとその計劃を樹てゐた。

そのほかに、何もないのだ……。

だのに、この厚い情けは……濟まない！

心がたまらないのだ。

『どうかなさいましたか』

茅江から、やさしく問はれて、箸を取つた。

食事が濟んで、もう寢に就かうかといふ時刻だつた。

不意に、あわたゞしい足音が表でして、ガラリと戸が開くと、轉がるやうに飛び込んで來たのは、愼吾の妹のお香代である。

『まあ、お香代ちゃん！』

『六郎なの。兄が……兄が……』

あの勝氣なお香代が、顔色を眞蒼にして、オロ〳〵してゐるのだ。

廣告

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平市・九品寺前

おでん
たつた揚
やきとり
一平
電話二六三番

吸入用酸素
呼吸困難治療として早くおすゝめ下さい
流行感冒豫防に
（マスク）各種あります
病氣豫知に
（體溫器）各種ありまます
平市古鍛冶町一〇（縣社下）
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇六五番

日本精神世界の誇
修養の量華道專一
特設作法煎茶式教授
近代的挿花、盛花、投入教授
毎週木日曜日午前中
場所平市田町五十番地（市役所西側）
家元池坊生花教授
日本禮道煎茶式師範
先崎翠峯
自宅平市田町五十番地
◇『入門歓迎』
◇出稽古も御希望に應じます

平土産
米屋の
きんさん色
最中
平市驛前通り
米屋

中等學校
正服……大特賣
高島屋の洋服
男女學生服
新入荷
注文並製品既二
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

日本石油株式會社特約店
フィルンドサン石油株式會社石油特約店
福島縣平市一丁目（電話六十一番）
株式會社關彰商店平支店
本店　茨城縣下館町　電話五五、三三九番
茨城縣土浦町田宿　電話六五三番
茨城縣久慈町　電話一三七番
茨城縣多賀郡　大津一四七番
支店　福島縣四倉驛前　平潟五四番
福島縣小名浜町　電話四八番
油槽所（常磐線泉驛前）
海岸給油所（大津港、平潟港、江名濱）
ガソリン給油所（土浦町新國道日本石油給油所）
電話八二番四

御婚禮
御法事
御會食
御宴會
多少に不拘是非御用命の程を
尚季節向ノ
柳川料理を始メマシタ
平田町　電話一七一番
さかき家
料理部

耳鼻喉科
專門
平市南町一六番地
大和田醫院
（入院隔離室完備）
電一七〇番

これは便利！
△手を荒さず
△絹、毛織物、木綿、スフの生地を傷めず
△つけてたくだけで洗へる
美マルミ粉末石鹼
製造元　平市材木町一一

國民精神總動員……
日本國民・必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
（1部10セン）
…お取次致して居ります…
（平2）西村藥局（電3）

◇開店御挨拶◇
味覺を本位として、新しい歌びに充ちて生れた山茶は、味覺の客一殊に家族連れ一日本料理と壽司とを主としたモダン割烹で御座います。
當店は家族的な團欒を强調し、設備調度は申す迄もなく、店内の雰圍氣を常に明朗にして氣品を高め、潑剌にして秩序あらしめ、これに美食を配して、御客樣方、極めて氣輕に至味三昧に入らんことを！モットと致し、萬事に心をいたして居ります。
美味無限の山茶！
眞にお客樣本位の山茶！
御家族御同伴の山茶！
これこそ、高らかに產聲をあげた山茶の眞價でございます。何卒御愛顧と御利用下さいます樣切望いたします。
平市仲町
山茶
主人敬白

國はニッポン・魚は凍魚
日本水產特約
卸小賣
平製氷會社
（電二三八・三二六）
タイ
エビ
甘鯛
白魚
マナ鰹
帆立貝柱
冷カツノコ
ウニ貝燒
ヒノマル凍魚
平代理店
卸
四丁目
魚岡屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

旅館
大志賀
電話下谷長六七七番
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人　比佐棟雄
東京上野驛御
下谷鶯谷局横通角

月曜論壇

市内商人に望む

市内各商店に於ける公休制度が一糸乱れざる統制の下に其の都度勵行されつゝあるは、躍進平市に於ける各商店主の時代即應的敎養の然らしむるものとして衷心敬意を拂ふ處であるが、本紙既報某有書家の意見通り當日全商店を挙つて雨戸を閉め切り、宛然萬籟閑たる深更の樣な光景を露呈する事は、果して新興平市に於ける商店の公休情景として相應しいものであるかどうか。惟ふに法の要求する休養安息の制度は、それら關係者に對する保健衛生を根本とする社會立法であり、天恵の太陽を遮斷して屋内を暗闇ならしめねばその眞目的を達し得ぬと解する如きは謬れるも甚しい一大時代錯誤と云はねばならない。由來色種の指導統制に就ては地元商工會議所等の指導精神宜しきに適する時に於て、其間多くの遺憾無きを期し得るのであるが奈何せん市の現狀に於ては市制實施後二年、今尚は加更正豫算に計上、今月末賦課された平市では取り敢えず此程開かれた市會で追の納期を前に一今二十二日福島市役所に開かれ納入協議會に青沼市長が出席した

名も床し高月台に
北白川宮を御記念
建碑計畫着々進行

故陸軍大將大勲位北白川宮能久親王殿下（元輪王寺宮）には、明治戊辰の際、海路にて東奥に御踏躍し給へる御途中、初めて平潟港に御上陸本郡に御三泊遊ばされたる遺史に就き、第三王子海軍中佐（現少將）小松輝久侯爵には、昭和四年七月十八日小名濱港に簡閲點呼にて御來航の砌り、親て父君殿下の御足跡を偲ばせ給ひ市内高月に成らせたが、今回之を記念し高月に親王御假泊の御事蹟を永久に傳ふる爲め建碑の計畫成り着々進行中の由であるがその時には御多端に亘らせらるゝ鎮軍務の御餘暇を御割き遊ばされ侯爵少將も御臨席遊ばされるとと

紹介所負擔金納入協議
けふ青沼市長出福

國營職業紹介所の地元負擔金問題に關してはさきにその金額を國及び縣費折半負擔にせらるゝやう縣下四市から陳情したが未決定のまゝ十三年度分千六百一圓が賦課された平市では取り敢えず此程開かれた市會で追加更正豫算に計上、今月末の納期を前に一今二十二日福島市役所に開かれ納入協議會に青沼市長が出席した

日曹小田成瀬清（好間）吉田昇（湯本）大矢藤太郎（同）吉田淳吉（平）佐藤榮治（同）神保市藏（同）大方慶助（同）鈴木貫久（豊間）大和田新一郎（好間）谷口弘仁（平）

軍馬慰靈碑
松ケ岡に建立

平署管内牛馬商組合が工費八百余圓で松ケ岡公園忠魂碑附近に建てる軍馬慰靈碑の市有地借地願につき市で二十四日土木委員會で協議

子供の世話が第一
大人の遊山氣分遠慮の事
修學旅行に學校の希望

市内四小學校尋常六年男女生約七百五十名の見學旅行は來る三十一日より翌一日に亘り、鎌倉、江の島、横須賀、東京方面に向つて行はれる筈で、始めて味よ初旅の愉快さを樂しんでゐるが右旅行に關、學校當局で携帯品は出來る丈け少くして貰ひ度い。生徒の附き添ひは結構ではあるが大人の物見遊山では無く子供の世話を第一とする意味で赤ん坊連れの手は觀光氣分のはよして貰ひ度い。小遣ひ錢は一圓限度、飲食の注意などをして頂ければ結構である。

・・・